



TITLE:

外国人研究員 外国人共同研究者 研修員 日本学術振興会特別研究員 受託研究員 研究生 所内談話会 大学院
コロキウム 公開講座 夏期セミナー
(第4回) 市民公開日(第3回)(I 研究所
の概要)

AUTHOR(S):

CITATION:

外国人研究員 外国人共同研究者 研修員 日本学術振興会特別研究員 受託研究員 研究生
所内談話会 大学院コロキウム 公開講座 夏期セミナー(第4回) 市民公開日(第3回)(I 研究所
の概要). 霊長類研究所年報 1993, 23: 46-49

ISSUE DATE:

1993-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164495>

RIGHT:

化学会大会. 発表抄録集, 935.

- 23) 長谷川良平(1992): コロセウム迷路における海馬損傷ラットの空間関係学習. 関西心理学学会第104回大会. 発表論文集, 30.
- 24) 長谷川良平(1992): 顔画像の定量化に基づく表情表出シミュレーション. 計測自動制御学会ヒューマン・インターフェース部会第8回シンポジウム. 論文集, 233.
- 25) 山越 言・小田 亮 (1992): ニホンザルメスの estrous call の音響的特徴について. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 219.
- 26) 小田 亮・山越 言 (1992): ニホンザルメスの estrous call の配偶者選択における役割. 第8回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 8(2), 207.

外国人研究員

氏 名	受入教官	研究 課 題	招聘期間
Alberto Cadena	瀬戸口 烈司	南米哺乳類に関する系統学的研究	3. 7. 1 ～ 4. 6.30
Iver H. Iversen	松沢哲郎	チンパンジーにおける刺激等価性の研究	4. 6.24 ～ 5. 4.23

外国人共同研究者

氏 名	受入教官	研究 課 題	招聘期間
Ellen Ingmanson	加納隆至	ボノボの道具使用・知能に関する観察資料の整理分析	3. 9.21 ～ 4. 8.20

研 修 員

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
芝原総子	大澤秀行	授乳が性行動に及ぼす影響	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
竹中晃子	竹中 修	カニクイザルのα-グロビン遺伝子領域に見出された未知プロセスト遺伝子について	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
三谷雅純	杉山幸丸	コンゴ国熱帯雨	4. 4. 1

林における同所性霊長類の研究	～
小型哺乳類(特に樹上性リス)の社会学的研究	5. 3.31 4. 8. 1 ～ 5. 7.31

瀬戸口 加納隆至
美恵子

Suchinda Malaivijitnon	竹中 修	カニクイザルのグロビン遺伝子構造解析	4.12. 1 ～ 5. 2.28
------------------------	------	--------------------	-------------------------

日本学術振興会特別研究員

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
伏見貴夫	小嶋祥三	霊長類のコミュニケーションに関する実験的研究	3. 4. 1 ～ 5. 3.31
日上耕司	松沢哲郎	霊長類における利他的行動の実験的分析	4. 4. 1 ～ 6. 3.31
室山泰之	杉山幸丸	霊長類の相互交渉に関する行動学的研究	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
高井正成	野上裕生	南米コロンビアのラベンタ地域から産出する霊長類化石の解析	4. 4. 1 ～ 5. 3.31

受託研究員

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
安藤一郎	久保田競	大脳生理学について	4. 4. 1 ～ 5. 3.31

研 究 生

氏 名	指導教官	研究 課 題	研修期間
山根 到	久保田競	目標到達運動における運動前野の機能	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
栗田博之	杉山幸丸	霊長類の行動と生態の研究	4. 4. 1 ～ 5. 3.31
Gurja Belay	庄武孝義	霊長類の集団遺伝学的研究	4.10. 1 ～ 5. 3.31

金 熙洙 竹中 修 霊長類DNAの 5. 2. 1
解析 ~
6. 1.31

所内談話会

- 第1回：平成4年5月21日
友永雅己（京都大・霊長研）「“関係”の学習と刺激等価性」
- 第2回：平成4年7月29日
Iver H. Iversen（京都大・霊長研）
「Reinforcement: A fundamental mechanism in animal learning」
- 第3回：平成4年9月7日
高根芳雄（マギル大・心理）「MDS（多次元尺度構成法）とその応用」
大嶋百合子（マギル大・心理）「ヒトの子どもの言語発達」
- 第4回：平成4年10月1日
目方文夫（京都大・霊長研）「血管内皮細胞由来性弛緩因子」
- 第5回：平成4年11月19日
安倍博（京都大・霊長研）「サーカディアンリズムの光サイクル同調機構と光依存性 Fos protein」
- 第6回：平成5年1月14日
野上裕生（京都大・霊長研）「環境の変遷」
- 第7回：平成5年2月18日
鈴木晃（京都大・霊長研）「オランウータンの調査の現状」
- 第8回：平成5年3月25日
庄武孝義（京都大・霊長研）「知られざるゲラダヒヒのパラダイス」
（談話会係：中村克樹・後藤俊二）

大学院コロキウム

昨年度に創設された「大学院コロキウム」を本年度は下記のとおり2回開催した。概要を記す。

第1回 平成4年7月1日（水）
「霊長類学の道具としてのコンピューター」
（参加：約50名）
講演者と題目
藤田和生（心理研究部門）

コンピューターの歴史と現状
花沢明俊（大学院生）
各種パソコンによるデータの集積・解析・提示
① マッキントッシュ
友永雅己（心理研究部門）
② DOSマシン
沢口俊之（神経生理研究部門）
③ DOS/Vマシン
藤健一（立命館大）
コンピューターは霊長類学をいかに発展させるか：①心理学の立場から
小林秀司（日本学術振興会特別研究員）
②系統分類学の立場から
松村道一（京都大・人間・環境）
③神経科学の立場から
佐倉統（三菱化成生命科学研究所）
霊長類学の「対象」としてのコンピューター
企画：沢口俊之・安倍博
内容：藤田によりコンピューターの発展の軌跡が解説され、研究の道具としての有用性の変遷が語られた。花沢がマックのデモンストレーションと解説をした。友永はPC98系のシステムをもとに、実験制御からデータ処理や論文作製まで一貫したコンピューターの利用の実際を紹介した。沢口が、低価格によって最近注目を集めているDOS/Vマシンを紹介し、マックやNEC-PC98シリーズとの比較をおこなった。藤は、立命館大学心理学研究室での事例を紹介して、コンピューターを利用した実験制御を初学者に学ばせる過程を明示した。小林は系統分類および形態学といった分野でのコンピューターの利用を紹介した。松村は、神経科学研究においても必須の道具となったコンピューターの使用の現状を報告した。最後に佐倉は、環境問題とからめてコンピューターの進化について論じ、最近の人工生命AIに関連した話題を提供した。以上もりだくさんの内容で、身近なテーマなこともあり、フロアからの活発な議論や質問のでた熱気のあるコロキウムだった。

第2回 平成4年12月16日（水）
「研究対象としての霊長類の保護・飼育・実験」
（参加：約50名）
講演者と題目
酒向貴子（環境庁自然保護局・野生生物課）

行政の立場からみた霊長類の保護
渡辺邦夫（ニホンザル野外観察施設）
野生霊長類の現状と保護管理
三上章允（神経生理研究部門）
実験殺を伴う実験における霊長類の利用
松林清明（サル類保健飼育管理施設）
日本における動物実験反対運動とサル
討論：野崎真澄・山極寿一・揚妻直樹・花沢明俊。
企画：相見満，松沢哲郎
内容：ゲストとして環境庁より酒向さんをお招き
して，行政の立場から，主としてワシントン条約
とその関連国内法の現状について講演していただ
いた。渡辺は，野生ニホンザルを例に野生霊長類
の保護管理のありかたについて提言した。三上は，
実験殺をとまなう研究のガイドラインについて欧
米の現状を報告した。最後に松林が，いわゆる動
物福祉（Animal welfare）や，動物の生きる権
利（Animal right）にかんする運動や主張につ
いてその現状を概説した。こうした内容について
は，大学院の講義（実験動物学）等ですでに大学
院生に伝えられている。しかし，教官と大学院生
がともに霊長類の研究者として，また侵襲的な実
験をする研究者と野外調査を主とする研究者とが
一堂に会して，霊長類の保護・飼育・実験につ
いて論じた点で有意義なコロキウムだった。なおこ
のテーマについては，次年度以降さらに検討を深
めることが提案された。

（松沢：92年度カリキュラム委員会）

公 開 講 座

「霊長類の進化」

平成4年8月4日（火）・5日（水）の両日，
霊長類研究所会議室において開催した。定員は例
年どおり80名としたが，前々年と前年と続けて受
講した方に申し込みを御遠慮いただいたことと，
当日の欠席が約10名あったことから，出席者は約
70名であった。例年，受講者が定員より多めにな
らざるをえない事情があったのに対し，今回は会
場のスペースの上でも，質疑応答等の上でもより
余裕があり，好都合であった。例年のように参加
者は中・高校教員のほか，大学生，社会人など各
方面にわたっている。講義・実習の内容は以下の
とおりである。

総合案内

岩本光雄

「酵素化学と遺伝子工学」 景山 節
「遺伝学からみたヒヒ類の系統と進化」

庄武孝義

「群れと地域コミュニティ」 森 明雄

「霊長類の知的行動」 友永雅己

骨 学 実 習 岩本光雄・国松 豊

実験動物実習 松林清明・後藤俊二

（担当：岩本光雄）

夏期セミナー（第4回）

暑いなかを東北から琉球まで全国16大学，50名
の3・4年生（5年，獣医6年，大学院修士課程
学生，各2名をふくむ）が参加した。所属学部は
理（22名），文（12），農（8）など，のべ19学部
であった。申し込みは早々と定員に達し，受講で
きななかった希望者も大勢いた。1992年7月14日
（火）9時30分から15日（水）17時まで2日間の
日程であった。研究所全体の紹介とガイダンスの
のち，各部門施設の研究紹介にそれぞれ45分を
かけ，さらに，各人1部門施設，60分の見学を行な
った。最後に各分野の教官が集まり，あらゆる観点
からの質問を90分にわたって受けつけて総合討論
とした。14日の夜にはセミナー室でパーティーを
開いて，受講者と教官が混ざりあって，自由に活
発な討論が夜更けまでなごやかに行なわれた。

（担当：杉山幸丸）

市民公開日（第3回）

研究所では，当研究所が目的としているところ
や現在行っている研究を地域の人々に理解してい
ただくことや，1989年10月のチンパンジー逃亡事
件を契機として，研究所を原則として立入禁止に
したことなどの理由から，平成3年秋より市民公
開日をもうけている。

当初丸山，富岡地区の中学生以上の方々を対象
としていたが，平成4年には新たに塔野地地区の
方々も対象に加えた。各区長にお願いして案内状
を送り，下記のプロプログラムで実施した。三地区
から約60名，その他30名の来訪者があった。

日時：平成4年10月20日（日）13:00 - 16:00

13:15 - 13:30 久保田所長挨拶

13:30 - 14:30 講演 杉山幸丸教授

「チンパンジーとアフリカ」

14:30 - 16:00 所内見学(サル放飼場, ビデオ
上映, パネルでの研究所案内
14:30 - 16:00 質問コーナー
(担当: 竹中 修)

学位取得者と論文題目

理学博士(課程)(霊長類学専攻)

小林秀司

A phylogenetic study of titi monkeys, genus
Callicebus, based on cranial measurements
(頭骨計測値に基づくティティ属の系統関係)

理学博士(論文)(霊長類学専攻)

中村克樹

継時視覚弁別課題遂行中のサル扁桃核の単一ニュー
ロン活動の解析

理学博士(課程)(霊長類学専攻)

Aly Gaspard Soumah

Feeding strategies and reproductive success:
nutritional and demographic implications of
social status in Japanese macaques (採食戦
略と繁殖成功: ニホンザルの栄養摂取と繁殖に
おける順位の影響)

理学修士(霊長類学専攻)

金沢 創: ヒトおよびニホンザルの表情認知に関
する実験的研究

嶋田 誠: 多座位電気泳動法によるヒト上科系統
樹の評価

田中正之: チンパンジーにおける分類行動

松元健二: 継時視覚弁別課題遂行中のサル前頭眼
窩回皮質ニューロンの活動